

躍進の農業 4000億時代へ

十勝農業の主な動き(1993年以降)

- 1993 ● ガット・ウルグアイラウンド農業交渉合意
記録的冷害で豆類などに被害
- 1999 ● 食料・農業・農村基本法の制定
- 2000 ● 口蹄疫発生。雪印乳業大樹工場で粉乳食中毒事件
- 2001 ● 道内でBSE発生、全頭検査始まる
- 2002 ● 第30回国際農業機械展。北愛国に会場変更、名称が「国際」に
農業産出額が2500億円突破
池田町の畑作農家、松浦穂さんが農林水産祭天皇杯を受賞
- 2003 ● J A帯広市とJ Aかわにしが合併
- 2005 ● J Aあしょろと足寄町開拓農協が合併
土幌町の酪農家、鈴木洋一さんが日本農業賞大賞を受賞
消費低迷などによる生産調整で生乳を廃棄
生乳生産量が100万トン突破
- 2007 ● 帯広川西長いも生産組合が日本農業賞大賞、農林水産祭天皇杯を受賞
- 2010 ● 第32回国際農業機械展が国内の口蹄疫で1年延期
- 2011 ● 第32回国際農業機械展が東日本大震災で中止
秋まき小麦品種「きたほなみ」本格導入
- 2014 ● 第33回国際農業機械展が8年ぶりに開催
肉用牛の飼育頭数が20万頭突破
- 2015 ● 管内J A取扱高が3233億円となり初めて3000億円を突破
- 2016 ● J A中札内村枝豆事業部会が日本農業賞大賞を受賞
連続台風による甚大な農業被害
- 2017 ● 十勝農業共済組合と土幌町が組織再編
- 2018 ● 第34回国際農業機械展開催。TPP11発効
大規模停電(ブラックアウト)が酪農などに影響
- 2021 ● J A十勝池田町とJ A十勝高島が合併
管内J A取扱高が過去最高の3735億円
- 2022 ● コロナ禍で生乳の生産抑制、第33回国際農業機械展は翌年に延期

「十勝農業新技術」の発行が始まった1993年以降、十勝農業は大きく飛躍してきました。排水対策などの基盤整備、機械化やIT化、生育管理技術の進歩、農業関係者の努力によって、畑作と酪農・畜産のそれぞれで生産力は向上。農業産出額・取扱高は、1993年の2000億円余りが2022年には3700億円に達しました。J Aネットワーク十勝や十勝農協連は2026年の目標に4100億円を掲げていて、さらなる成長、進化が期待されています。

十勝の農業産出額/J A取扱高の推移

